

拡大も判断が難しく、TPPも先の予測がつかない」と心配する。

鹿追町で畑作を営む西上経営組合の上原明彦代表も取扱高を「農家一戸一戸の努力が実った」としつつ、TPPに対しては「国が決めたものはどうしようもない。足腰の強い経営体をつくり、(何がきても)対応できる体制にするのが大切」と受け止める。

清水町の養豚農家青木賢一さんは、取扱高増を「消費

者が十勝・道内産に信頼を持っている」と受け止める。TPP対策では肉牛や豚の赤字補填(ほてん)の9割拡大が盛り込まれたが、「残り1割で経営が難しくなる農場も必ずある」と厳しい将来を予測する。

輸入は増え、価格では太刀打ちできないとし、「十勝産は安心・安全でしかもおいしい。それ(TPP)までに食べてファンになってもらい、選んでもらえる豚肉を作っていかなば」と戦略を描いている。

ハイライズポロ15 農業

2015年の十勝農業は、24JAの農畜産物取扱高が過去最高の3233億円を記録して締めくくった。畑作では小麦が収穫量30万トの大豊作となり、主力品種「きたほなみ」がついに実力を発揮した形に。乳価アップと牛の価格の高値推移で酪農畜産も好調で、十勝農業の力強さが発揮された年となった。10月には乳牛改良の成果を競う「第14回全日本ホルスタイン共進会」が胆振管内安平町で開かれ、十勝勢は最高位賞に輝くなど活躍した。一方、日米など12カ国は同月、環太平洋連携協定(TPP)締結交渉で大筋合意に達した。政府は経営安定化対策などを取りまとめているが、農業者には将来の懸念と不安が広がっている。

取扱高が最高の3000億円台

15年産の管内24JAの農畜産物取扱高は、これまで過去最高だった昨年の2708億円を16%(435億円)上回り、初の3000億円台を記録した。

耕種(畑作)部門は、14年産比15%増の1409億円、畜産部門も同16%増の1824億円と、ともに過去最高を更新。小麦が同55%増の408億円と大豊作を記録した他、糖度が上がったビートも同11%増の31億円、酪農は乳価や牛の販売価格上昇で同11%増の1148億円、枝肉や素牛が高

きたほなみ本領 小麦記録的豊作

十勝管内の15年産の小麦は記録的な豊作となり、収穫量は過去最高の30万3600トと初の30万トを超えた。



豊作となった15年産小麦の収穫風景(7月15日、清水町で)

十勝総合振興局は、多収・高品質の理由を、出穂期(6月)の日照時間が長いなどの天候条件に加え、適期、適正量の播種(はしゆ)など主力品種の「きたほなみ」の栽培方法が定着してきたと分析している。

全共で活躍続々 天野さん最高賞

乳牛改良の成果を競う第14回全日本ホルスタイン共進会(全共)が10月、安平町の道ホルスタイン全国1位となった乳牛「レディス マナー MB セレブリティ」と天野さん(10月25日)



き下げ、乳製品は低関税輸入枠を設ける。

政府はTPP対策を発表し、生産額は減らない見通しを示したが、農業生産に打撃を与え、地域と食のつながり、食の安心・安全を危うくするという懸念も広がっている。

十勝の自給率は試算124.9%

フードバレーとから推進協議会(会長・米沢則寿帯広市長)は、十勝の食料自給率(カロリーベース)は124.9%との試算結果を公表した。

2006年公表の「100%」

共進会場で開かれた。05年以来10年ぶりの開催で、道内初開催。十勝勢は全道68頭の4割を占める26頭が出場し、好成績を収めた。十勝からは、更別村の天野洋一さんの出品牛が全体1位の最高位賞に輝いた他、各部門1位に当たる「名誉賞」9部門中4部門を制し、酪農王国の実力を示した。

農業の経済波及効果では、生産誘発額4772億円、就業誘発人数年間2万7847人とした。

2年6カ月に及ぶ交渉の末、10月5日、アトランタでの関係会合でTPPは大筋合意に至った。米、麦、牛肉・豚肉、乳製品、

TPP大筋合意 小麦に無関税枠

甘味資源作物(砂糖)など重要5項目を守るかが注目される中、7月のハワイの関係会合は物別れに終わったが、土壇場の交渉延長で大筋合意に達した。小麦は無関税輸入枠を設け、関税を9年目までに45%削減する内容で、牛肉は現行38.5%の関税を段階的に引